

合 併 趣 意 書

今般、鹿児島興業信用組合及び鹿児島県信用組合は、金融機関を取り巻く国内外の経営環境が大きく変化する中、代表者間で協議を重ねた結果、地域密着型の金融機関として地域経済の発展に一層貢献し、組合員をはじめとするお客様の高度化・多様化するニーズにお応えするという基本理念の下、経営体質を強化し、強固な経営基盤を構築する事が必要であるとの認識が一致したことから、平成20年11月上旬を目処に対等合併することで基本合意致しました。

私どもは、信用組合業界の一員として、お客様に対する金融サービスをよりよいものとするために、時代の変化を敏感にとらえ、また時代を先取りし、共に経営を変革していくことが肝要と考え、両組合の英知と経営基盤を結集することによって、地域のお客様の多様化するニーズに的確に対応することと致しました。

今回の合併により、薩摩半島と大隅半島をつなぐ信用組合が誕生することによって、これまで両信用組合がそれぞれの地域で培ってきたノウハウを統合することができ、経営基盤はより強固なものになると考えております。

また、店舗数、預金量、顧客数などの合併によるスケールメリットを活用し、経営の効率化や顧客利便性を高めること等によって、これまで以上に地域の活性化に貢献できるものと考えております。

以上のように、経営体質の強化と強固な経営基盤を維持することにより、協同組織金融機関として経営理念の原点であります相互扶助の精神の下、地域の発展を真摯に考え、豊かで活力のある地域社会づくりのために貢献度を高めていく所存でございます。

今後、一日も早く今回の合併の効果を発揮できるよう、役職員一丸となって誠心誠意努力して参る所存であります。何卒、皆様の暖かいご支援とご理解を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成20年2月5日

鹿児島興業信用組合 理事長 西田 輝樹
鹿児島県信用組合 理事長 櫻山 教昭

「合併の基本項目」

1. 合併の時期 平成 20 年 1 1 月上旬を目処とする。
2. 合併の方法 対等合併
3. 合併後の名称 鹿児島興業信用組合
4. 存続組合 鹿児島興業信用組合
5. 本店所在地 鹿児島市東千石町 17 番 11 号
6. 役員構成 合併時の鹿児島興業信用組合の理事長とする
他の役員については、後日決定する。
7. 営業地域 鹿児島県一円
8. 職員の継承 合併時の職員全員を継承する
9. その他 合併に関する細目を協議するため合併準備委員会を設ける
10. 合併後の指標 (平成 19 年 9 月末日現在)

(単位：百万円)

項 目	合併後	鹿児島興業信組	鹿児島県信組
預 金	142,648	47,858	94,790
貸 出 金	87,208	26,995	60,213
出 資 金	4,309	669	3,640
組合員数	63,569	15,745	47,824
店 舗 数	39	15	24
職 員 数	339	131	208

平成 19 年 9 月末時点における両組合を単純に合算したものです

上記時点での残高を基準にした所での預金規模順位は、九州管内信用組合 23 組合中第 2 位、全国信用組合 168 組合第 29 位

11 . [沿革]

[鹿児島興業信用組合]

昭和 28 年 5 月 18 日「鹿児島興業信用組合」として設立

平成 3 年 4 月 1 日「南薩信用組合」を合併 現在に至る。

[鹿児島県信用組合]

昭和 29 年 6 月 18 日「鹿屋信用組合」として設立

昭和 63 年 5 月 2 日「始良信用組合」・「鹿児島錦江信用組合」

「薩摩信用組合」を合併

昭和 63 年 5 月 2 日「鹿児島県信用組合」に改称、現在に至る。